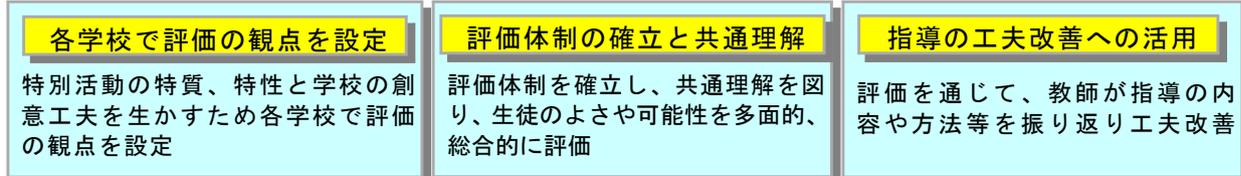


特 別 活 動

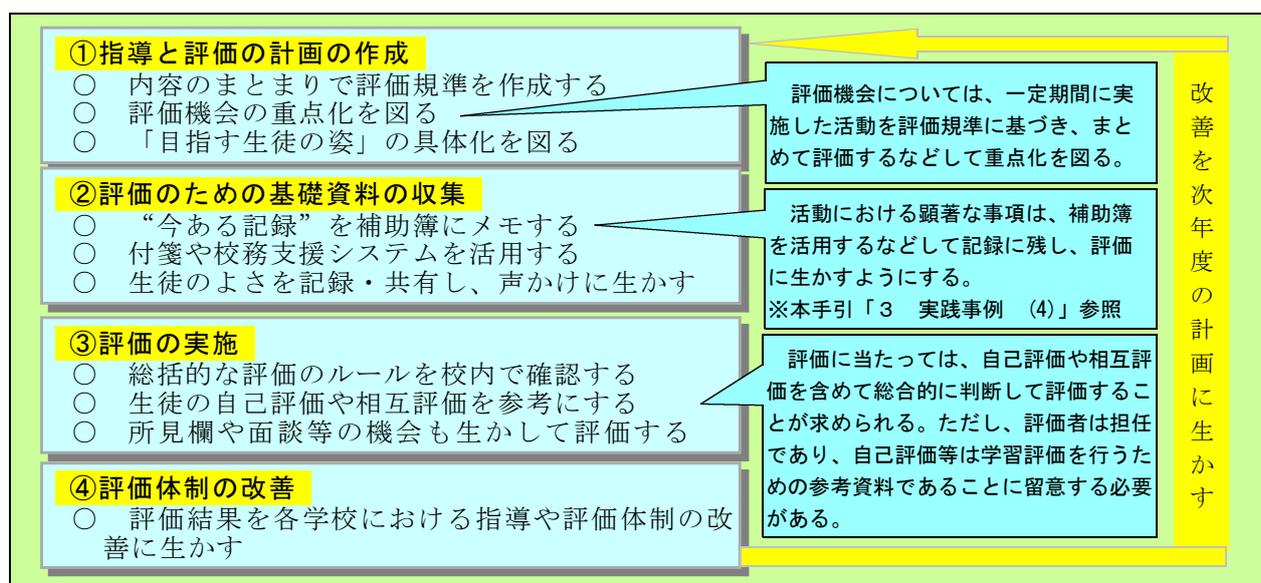
1 特別活動の学習評価を行うに当たっての基本的な考え方

特別活動においては、学習指導要領の目標及び特別活動の特質、特性と学校の創意工夫を生かすため、各学校が評価の観点を定めることとしている。また、特別活動は、全校又は学年・学科を単位として行う活動があり、担任以外の教師が指導することも多いことから、各学校で評価体制を確立し共通理解を図り、生徒のよさや可能性を多面的、総合的に評価できるようにすることが必要である。また、評価を通じて、教師が指導の内容や方法、指導過程等を振り返り、より効果的な指導が行えるよう工夫改善を図ることが重要である。



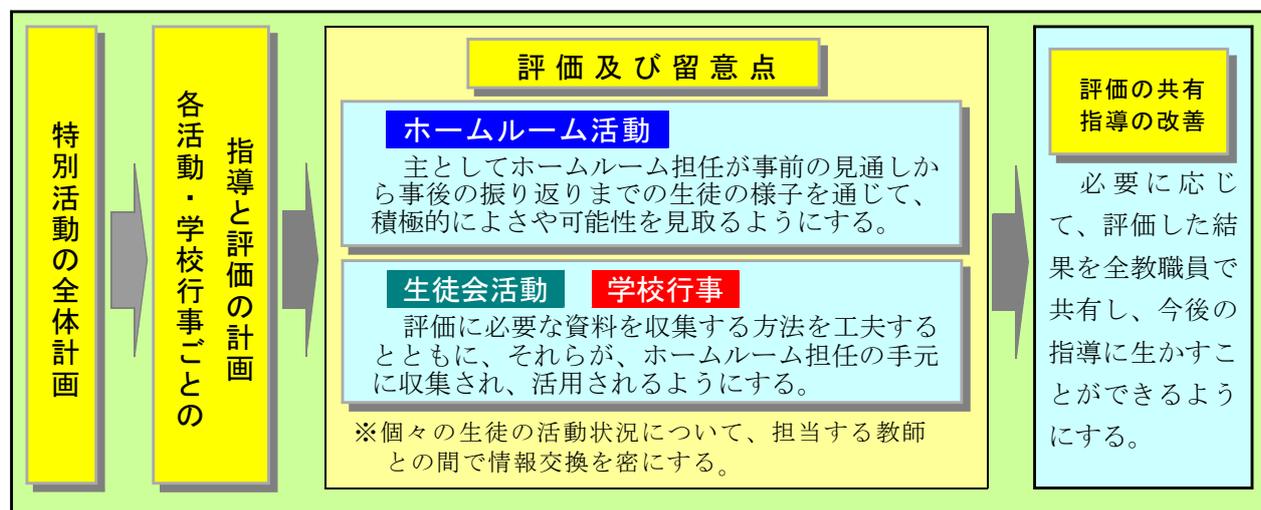
(1) 評価の手順

各学校においては、特別活動の特質を踏まえ、次のような評価の手順を参考にして、適切に評価を進めることが大切である。



(2) 指導体制の確立

評価に当たっては、校内において次のような体制を確立する必要がある。



(3) 指導と評価の計画の作成

指導と評価の計画の作成に当たっては、内容のまとまりごとに評価規準を設定し、1単位時間の指導計画を作成することが考えられる。

各活動・学校行事ごとの評価規準の作成

【評価規準を設定する際の内容のまとまり】

- ホームルーム活動 (1) ホームルームや学校における生活づくりへの参画
- ホームルーム活動 (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
- ホームルーム活動 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
- 生徒会活動
- 学校行事 (1) 儀式的行事
- 学校行事 (2) 文化的行事
- 学校行事 (3) 健康安全・体育的行事
- 学校行事 (4) 旅行・集団宿泊的行事
- 学校行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事

「目指す生徒の姿」の設定

1単位時間の指導計画においては、各活動・学校行事ごとに設定した評価規準に則して、事前・本時・事後における「目指す生徒の姿」を、具体的に設定することが考えられる。

【留意点】適切な授業時数の確保

生徒会活動や学校行事については、学習指導要領第1章総則において、「生徒会活動及び学校行事については、学校の実態に応じて、それぞれ適切な授業時数を充てるものとする」と示されており、それぞれの目標やねらいが十分達成できるように、よく検討して適切に授業時数を充てるようにする。

(4) 多面的・総合的な評価の工夫

特別活動では、次のように、生徒のよさを多面的・総合的に評価することが大切である。

活動の過程における評価

生徒が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題がもてるようにする評価を進めるため、活動の結果だけでなく、活動の過程における生徒の努力や意欲などを積極的に認める。

教師による観察

生徒一人一人を評価する方法としては、教師による観察が中心となるが、チェックリストや生徒自身の各種記録の活用など、評価方法の特質を生かして評価するようにする。

生徒の活動の紹介

生徒一人一人のよさや可能性を生かし伸ばす点から、好ましい情報や資料は、随時、当該生徒に伝えたり、ホームルームや学年・学科、学校全体で紹介したりすることが考えられる。

生徒自身による評価

生徒が自主的、実践的に取り組むことができるようにするために、生徒の学習活動として、生徒による自己評価や相互評価を行い、それらを評価の参考にすることも考えられる。

(5) 評価機会の工夫

特別活動の評価においては、評価結果を生徒の学習や教師の指導の改善に生かすまでの、一連の学習評価の流れを念頭におき、評価方法の工夫を図る必要がある。

一連の学習過程で評価

特別活動は、活動の積み重ねにより年間を通して生徒の資質・能力の育成を図るものであるため、全ての評価の観点を事前・本時・事後の一連の学習過程の中で評価できるようにする。

補助簿、生徒の記録の活用

各活動・学校行事における顕著な事項は、教師が補助簿を活用して記録したり、生徒の「振り返りカード」を活用したりするなど、記録に残し、評価に生かすようにする。一定期間に実施した活動や学校行事を評価規準に基づき、まとめて評価するなど、効果的で効率的な評価となるよう配慮する必要がある。

「3 実践事例」の(4)に、「教師の補助簿を活用した総括的な評価方法の工夫」について、参考事例を掲載しています。

2 特別活動における評価の取扱い

特別活動の評価に当たっては、各活動・学校行事について具体的な評価の観点を設定し、評価の場や時期、方法を明らかにする必要がある。その際、特に学習過程についての評価を大切にするとともに、生徒会活動や学校行事における生徒の姿をホームルーム担任以外の教師とも共通理解を図って適切に評価できるようにすることが大切である。

(1) 各学校における特別活動の評価の観点的設定の仕方について

各学校における特別活動の評価の観点的設定の仕方について、初等中等教育局長通知（平成31年3月29日）では次のように示されている。

（前略）評価の観点については、高等学校学習指導要領等に示す特別活動の目標を踏まえ、各学校において定める。その際、特別活動の特質や学校として重点化した内容を踏まえ、例えば「主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度」などのように、より具体的に定めることも考えられる。（後略）

【特別活動の目標（資質・能力に関わる部分を抜粋）】

知識・技能	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

(2) 特別活動における「評価の観点」及びその趣旨について

各学校においては、高等学校学習指導要領に示された特別活動の目標及び内容を踏まえ、自校の実態に即し、観点を作成する。その際、次に示すように、特別活動の特質や学校として重点化した内容を踏まえて、具体的な観点を設定することが考えられる。

【特別活動における「評価の観点」及びその趣旨をもとにした例】

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 ○ 自己の生活の充実・向上や自己実現に必要な情報及び方法を理解している。 ○ よりよい生活を構築するための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法を話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 ○ 主体的に人間としての在り方生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

(3) 観点ごとの評価規準の作成について

各学校で作成した評価の観点や育成を目指す資質・能力をもとに、学習指導要領で示された各活動・学校行事の「内容」に即して、評価規準を作成する。

例えば、ホームルーム活動においても、生徒の発達の段階などを考慮し、評価規準を作成することが考えられる。

【ホームルーム活動「(1)ホームルームや学校における生活づくりへの参画」の評価規準（例）】

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
○ ホームルームや学校の生活を向上・充実するために諸問題を話し合っ解決することや他者を尊重し、協働して取り組むことの大切さを理解している。合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。	○ ホームルームや学校の生活を向上・充実するための課題を多角的に見いだしている。 ○ 課題を解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。	○ ホームルームや学校における生活や人間関係をよりよく形成し、多様な他者と積極的に協働しながら日常生活の向上・充実を図ろうとしている。

(4) 高等学校生徒指導要録における特別活動の記録について

各学校で定めた評価の観点を指導要録に記入した上で、各活動・学校行事ごとに、十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入する。学習指導要領に示す特別活動の目標や学校として重点化した内容を踏まえ、次の記入例のように、より具体的に評価の観点を示すことが考えられる。

【高等学校生徒指導要録（参考様式）様式2（第2学年）の記入例】

特別活動の記録						
内容	観 点	学 年	1	2	3	4
			ホームルーム活動	よりよい生活を築くための知識・技能	○	○
生徒会活動	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現		○			
学校行事	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度			○		
	余白					

全学年で共通した、各学校で定めた評価の観点を記入します。

評価の観点の変更がある場合を想定して、余白をとっておくことが大切です。

十分満足できる活動の状況について

指導と評価に当たっては、各学校で「十分満足できる活動の状況」とは「生徒のどのような姿」を指すのかを検討し、共通理解を図ってその取組を進めることが求められる。そのうえで、「目指す生徒の姿」に照らして、十分満足できる活動の状況がみられた場合に指導要録に○を付ける。

なお、生徒のよさや可能性を積極的に評価することが大切である。

3 実践事例

特別活動の評価において、最も大切なことは、生徒一人一人のよさや可能性を生徒の学習過程から積極的に認めるようにするとともに、特別活動で育成を目指す資質・能力がどのように成長しているかということについて、各個人の活動状況を基に、評価を進めていくということである。

本事例は、ホームルーム活動(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の指導計画と評価の事例である。多様な他者を尊重し、認め合える地域・社会を目指すことを題材にした一連の活動計画例、1単位時間の指導計画例、ワークシート及び教師の補助簿を活用した評価方法の工夫例を示す。

(1) 内容のまとめりごとの評価規準

学習指導要領における特別活動の目標及び自校の実態を踏まえて作成した評価の観点、各学校において育成を目指す資質・能力に基づき、評価規準を作成する。

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
<ul style="list-style-type: none"> 自己の生活上の課題の改善に向けて主体的に取り組むことの意義を理解している。 適切な意思決定を行い、実践し続けていくために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己の生活や学習への適応及び自己の成長に関する課題を見いだしている。 多様な視点から課題の解決方法を探り、自ら意思決定して実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者への尊重と思いやりを深めて互いのよさを生かす関係をつくろうとしている。 他者と協働して自己の生活上の課題解決に向けて、見通しをもったり振り返ったりしながら、悩みや葛藤を乗り越え取り組もうとしている。 自他の健康で安全な生活を進んで構築しようとしている。
<p>評価の観点は、特別活動の特質や学校として重点化した内容を踏まえ、各学校で定めた学校共通の評価の観点を記入します。</p>		

(2) 一連の活動と評価

時間	ねらい・学習活動	目指す生徒の姿		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ホーム ルーム 活動	「よりよい人間関係づくり」 ○ねらい 自他のよさや可能性に気付き、他者と協力し合える人間関係を築くことができる。 ○活動 体験発表を取り入れた話し合い		他者と協力し合える人間関係を築き、多様な意見を基に自ら意思決定をすることができる。	他者への尊重と思いやりを深めて互いのよさを生かす関係をつくろうとしている。
ホーム ルーム 活動	「主体的に国際社会に生きる日本人としての在り方生き方を探究する」 ○ねらい 国際社会の平和と発展に貢献することができる。 ○活動 留学生との意見交流	我が国や他国の歴史や文化・伝統について理解している。	国際社会の中に生きる日本人としての必要な知識や考え方などは、地歴公民科に属する科目をはじめとする各教科・科目等の中で学習しており、教科等横断的な視点で関連を図ることが大切です。	
ホーム ルーム 活動	「多様な性について考える」 ○ねらい 様々な性があることを知り、多様な性を認め合える社会の実現に向けて考察することができる。 ○活動 グループ協議	様々な性があることを知り、その違いや特性を肯定的に理解している。	多様な性を認め合える社会の実現について、他者の視点も踏まえ、自ら意思決定できる。	
学校 行事	「健康に関する意識を高める」 ○ねらい 人間の生命の尊さ、異性の尊重等について理解する。 ○活動 外部講師による講演会	人間の生命の尊さ、異性の尊重等について理解している。	一連の活動計画の作成に当たっては、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の内容との密接な関連を図り、充実させるようにすることが大切です。	

次頁の1単位時間の指導計画を参照

(3) 1 単位時間の指導計画

【内容、目標等】

教科等	ホームルーム活動(2)イ「男女相互の理解と協力」
本時の内容	「多様な性について考える」
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な性があることを知り、その違いや特性を肯定的に理解する。 ・多様な性を認め合える社会の実現に向け、自分たちができる取組について考察するとともに、自分らしく生きることの尊さについて考察する。

【展開例】

段階	時間	生徒の活動	○目指す生徒の姿 ・指導上の留意点
導入	5分	・学校生活や日常生活で「男女別」になっているものについて考える。	・トイレや制服など、男女で区別されているものが多いことに着目させる。
展開 ①	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の性別について考える。 ・LGBT、セクシュアルマイノリティを理解する。 ・差別用語について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・男女の単純な「法的な性別」だけではないことに気付かせる。 ・セクシャルマジョリティも「シスジェンダー」等に分類されていることを理解させ、自分の性はどれに当たるか考え、多様な性を身近なものとして捉えさせる。 ・差別用語が当事者を傷付けていることを理解させる。 ○様々な性があることを知り、その違いや特性を肯定的に理解している。【知識・技能】
展開 ②	30分	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者や周囲の人たちの声を聞き次のア・イを考える。 ア：「もし親しい友人からセクシュアルマイノリティであることを打ち明けられたら、どう応え、どう接していきたいか」考える。 イ：セクシャルマイノリティのため、更衣室やトイレ等の施設はどうすべきか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画等を視聴させ、当事者やその家族、友人の気持ちに触れさせる。 ※以下の活動はア・イ同様に取り組みさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・個人でワークシートに記入させる。 ・4人程度のグループで各自の考えを交流させる。 ・グループの考えを発表させる。 ○多様な性を認め合える社会の実現に向け、自分たちができる取組や、自分らしく生きることの尊さについて考察している。【思考・判断・表現】 ※評価方法：ワークシート
まとめ	5分	本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な性を認め合える社会の実現に向け、自分たちができる取組について考察させる。 ・自分らしく生きることの尊さについて考察させる。

「多様な性について考えよう」ワークシート

(●) 年 (●) 番 氏名 ● ● ● ●

個人思考 (自分の考え)

ア：もし、友人からカミングアウトされたら少し気まずくなると思う。
イ：誰でも使えるよう多目的トイレが多くなればよいと思う。

グループ交流 (他者の考え)

・当事者の気持ちを尊重することが大切だ。
・カミングアウトすることをためらわせてしまう社会に問題がある。
・高校生だけでなく大人も多様な性への理解を深め、誰もが生活しやすい環境づくりが必要だ。

グループ交流後の個人思考 (自分たちができる取組、自分らしく生きることについて考察)

・多くの人が様々な性について正しく理解し、互いを尊重することができるよう、話し合いの機会をもつとよい。
・多様な性への差別だけでなく、偏見やいじめのない社会になるよう、一人一人が意識することが大切だと思う。

先生からのコメント

・多様な他者を尊重し、認め合える地域・社会づくりについては、日頃の学校生活においても、授業や学校行事、部活動を通して互いの理解を深めることが大切です。

【思考・判断・表現】

他者の意見から課題解決の方策を探り、自ら意思決定することができるかを見取ります。
※この生徒は、他者の意見を踏まえ、社会全体の視点で解決策を考察していることから、十分満足できる活動の状況と考えられます。

生徒の記述状況によっては、教師が新たな視点を持つように促したり、もう一度記述内容を振り返ったりするよう指導の手立てが考えられます。

(4) 教師の補助簿を活用した総括的な評価方法の工夫

生徒	知・技	思・判・表	主体的態度	担任メモ	総括
A	①	②	③	①我が国や他国の歴史や文化・伝統について理解している。 ②多様な性を認め合える社会の実現について、他者の視点も踏まえ、自ら意思決定できる。 ③他者への尊重と思いやりを深めて互いのよさを生かす関係をつくろうとしている。	○
B	①	②		①自己の生活上の課題の改善に向けて主体的に取り組むことの意義を理解している。	

担任のメモの番号と連動させた数字で整理することにより、○を付けた根拠が分かるようになります。

総括的な評価における○の付け方の参考例

各学校で「十分満足できる活動の状況」とは「生徒のどのような姿」を指すのかを検討し、総括的な評価の方法について共通理解を図っておくことが重要です。

【参考例】

- (1) 各観点で「十分満足できる活動の状況」である○の数の総計で総括に○を付ける。
- (2) 各観点で全てに○が付いている場合、総括に○を付ける。
- (3) 記述状況や担任メモ、各観点での○の数などで総合的に判断し、総括に○を付ける。

Topic

ICTを活用した国際交流

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う出入国制限等の継続など、海外との往来が困難な状況が続く中、交換留学や訪日教育旅行の受入れなど対面の取組とは異なる、オンラインによる国際交流の機会が増加しています。

道教委では、これまで、U18高校生未来フォーラム事業など、ICTを活用した海外の高校生とのオンライン交流に取り組んできました。令和2年度からは、カナダ・アルバータ州等に加え、ニュージーランド、オーストラリア・タスマニア州などの教育機関と連携して交流先を増やし、高校生の国際交流の機会の拡充を図っているところであり、今年度、オンライン交流を実施する道立高校は27校に達しました。

海外の学校とオンライン交流を行う場合、交流言語や内容に応じて、教育課程上の位置付けを適切に行う必要があります。関連する教科・科目や総合的な探究の時間、特別活動における国際交流の内容を相互に関連付けて指導計画を作成するなど、教科等横断的な視点から教育課程を編成することにより、カリキュラム・マネジメントの充実が期待できます。

◇国際交流の取組と高等学校学習指導要領との関連(一部教科・科目等を抜粋)

教科等	高等学校学習指導要領における内容や内容の取扱い
国語科 (現代の国語)	・教材は、次のような観点に配慮して取り上げること。 広い視野から国際理解を深め、日本人としての自覚をもち、国際協調の精神を高めるのに役立つこと。
地理歴史科 (地理総合)	・調査の実施や諸資料の収集に当たっては、専門家や関係諸機関などと円滑に連携・協働するなどして、社会との関わりを意識した活動を重視すること。(国際理解と国際協力)
外国語科 (英語)	・生徒が英語に触れる機会を充実させるとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。 ・指導計画の作成や授業の実施に当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を図ること。
商業科 (グローバル経済)	・地球規模で経済を俯瞰して経済社会の動向・課題を捉える学習活動及び経済のグローバル化に関する具体的な事例について多面的・多角的に分析し、考察や討論を行う学習活動を通して、経済のグローバル化について理解を深めることができるようにすること。
総合的な探究の時間	・目標を実現するにふさわしい探究課題については、地域や学校の実態、生徒の特性等に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題などを踏まえて設定すること。
特別活動 (ホームルーム活動)	・我が国と他国の文化や生活習慣などについて理解し、よりよい交流の在り方を考えるなど、共に尊重し合い、主体的に国際社会に生きる日本人としての在り方生き方を探求しようとする。

◇南米パラグアイとの交流【北海道夕張高等学校ーアスンシオン日本語学校】

昭和11年、パラグアイのラ・コロメナ移住区への日本人の入植が始まり、現在では、同国に推定約1万人の日本人移住者及び日系人が在住しています。

令和2年度、全パラグアイ北海道人会連合会の協力を得て、高校生同士の交流の実現に向けた取組が始まり、パラグアイ側からはアスンシオン日本語学校が、同校の在籍生に夕張市出身の親族がいるという縁から、北海道側からは夕張高校が交流校となり、動画の交換が始まりました。夕張高校では、次のような交流が行われています。



【学校・地域紹介(夕張)】



【生徒の自己紹介(アスンシオン)】



【学校・地域紹介(アスンシオン)】

参加生徒数	1年生20名、2年生17名
交流言語	日本語、英語、スペイン語、グアラニー語
日本との時差	-13時間(サマータイム時は-12時間)
交流方法	メッセージ動画の交換、Zoomでの交流
教育課程上の位置付け	外国語科 英語による動画の撮影、相手校の動画の視聴等 特別活動 国・地域の文化や生活習慣に係る動画の撮影等 課程外 動画の編集等
交流の成果	国際交流や国際貢献に対する意欲や夕張市の歴史や移民について関心の高まりなど、生徒の変容が見られる。

Topic

校種間の引き継ぎを重視した「キャリア・パスポート」の活用

高等学校学習指導要領では、生徒が学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫することが求められており、平成31年3月に、生徒が活動を記録し蓄積する教材等として、「キャリア・パスポート」が例示されました。令和2年4月から全ての小学校、中学校及び高等学校において活用することとしています。

ここでは、「キャリア・パスポート」を活用する上で重視されている、校種間の引継ぎについて取り上げ、小・中学校で作成した「キャリア・パスポート」を高等学校で活用する実践例について示します。

1 「キャリア・パスポート」の学年・校種間の引継ぎ

小・中・高等学校のつながりを明確にしたキャリア教育を推進していくためには、「キャリア・パスポート」を学年や校種をこえて確実に引き継ぎ、活用することが重要になります。児童生徒が記録する日常のワークシートや日記、手帳や作文等は、「キャリア・パスポート」を作成する上での貴重な資料となります。

しかし、小学校から高校まで、全ての記録が引き継がれることは難しく、学期や学年単位での取捨選択や、再編集などの工夫が必要です。また、「キャリア・パスポート」は、各地域・学校での柔軟な編集等が可能であることから、高等学校においては、入学者から提出される「キャリア・パスポート」の様式が多様であることを前提として、活用することが求められています。

2 小・中・高等学校をつなぐ「キャリア・パスポート」の活用例

北海道網走南ヶ丘高等学校では、入学後のホームルーム活動において、新入生が小・中学校で作成した「キャリア・パスポート」を振り返らせる機会を設けています。これまで蓄積した記録や教材等を再編集することで、生徒が、自らの学習状況やキャリア形成の振り返りと見通しを行うことができるため、「学びに向かう力、人間性等」の育成が期待できます。また、同校では、生徒が作成した資料を活用して教育相談を行っており、教師が、生徒との対話を重視することで、生徒の成長を促し、系統的・継続的な指導を実施しています。

キャリア・パスポートの再編集

高校生活のスタートを切る時点で、今後を見通すために、小学校や中学校での生徒の思いや、経験等を振り返らせるよう工夫しています。



ポートフォリオ資料 I
1年 組 番 氏名 _____

～小学校時代の「自分」について～

■ 当時、どんなことに興味・関心を持っていましたか？

■ 将来、何になりたい(どんなことをやりたい)と考えていましたか？

■ 当時、一番頑張っていたことはどんなことですか？

～中学校時代の「自分」について～

■ 当時、どんなことに興味・関心を持っていましたか？

■ 将来、何になりたい(どんなことをやりたい)と考えていましたか？

■ 当時、一番頑張っていたことはどんなことですか？

～今の「自分」について～

■ 今、どんなことに興味・関心を持っていますか？

■ 将来、何になりたい(どんなことをやりたい)と考えていますか？

■ 今の理想を実現するために、どんなことを頑張ろうと考えていますか？

～今の「自分」について、悩みや心配事、質問などがあれば、自由に記述してください～

自己実現のために、高校では、どんなことに取り組むべきか、今後の学習や生活等を見通すように工夫しています。